

令和 5 年 度
特別選抜（社会人）・編入学 試験問題

小論文

注 意 事 項

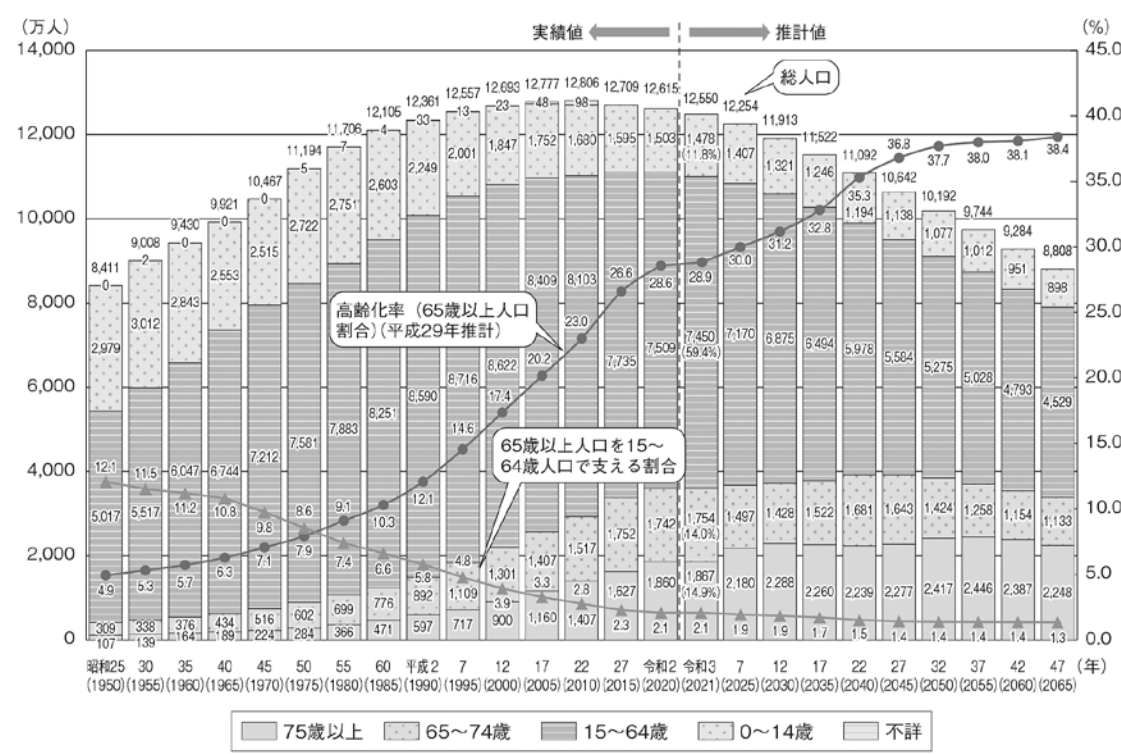
- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないで下さい。
- 2 解答はすべて解答用紙に記入して下さい。
- 3 解答には鉛筆かシャープペンシルを使用して下さい。
- 4 問題は全部で 3 ページあります。
- 5 試験時間は 9 0 分です。
- 6 試験終了後、問題冊子も回収します。
- 7 何か伝えたいことがあるときは挙手して下さい。

問題

資料 1 は高齢化の推移と将来推計、資料 2 は年齢階層別インターネット利用の目的・用途について示したグラフ、資料 3 は高齢プログラマー若宮正子さんのインタビュー記事です。

これらの資料から読み取ったことをもとに、これからの高齢者と情報科学の関わりについてあなたの考えを 1500 字以内で書きなさい。

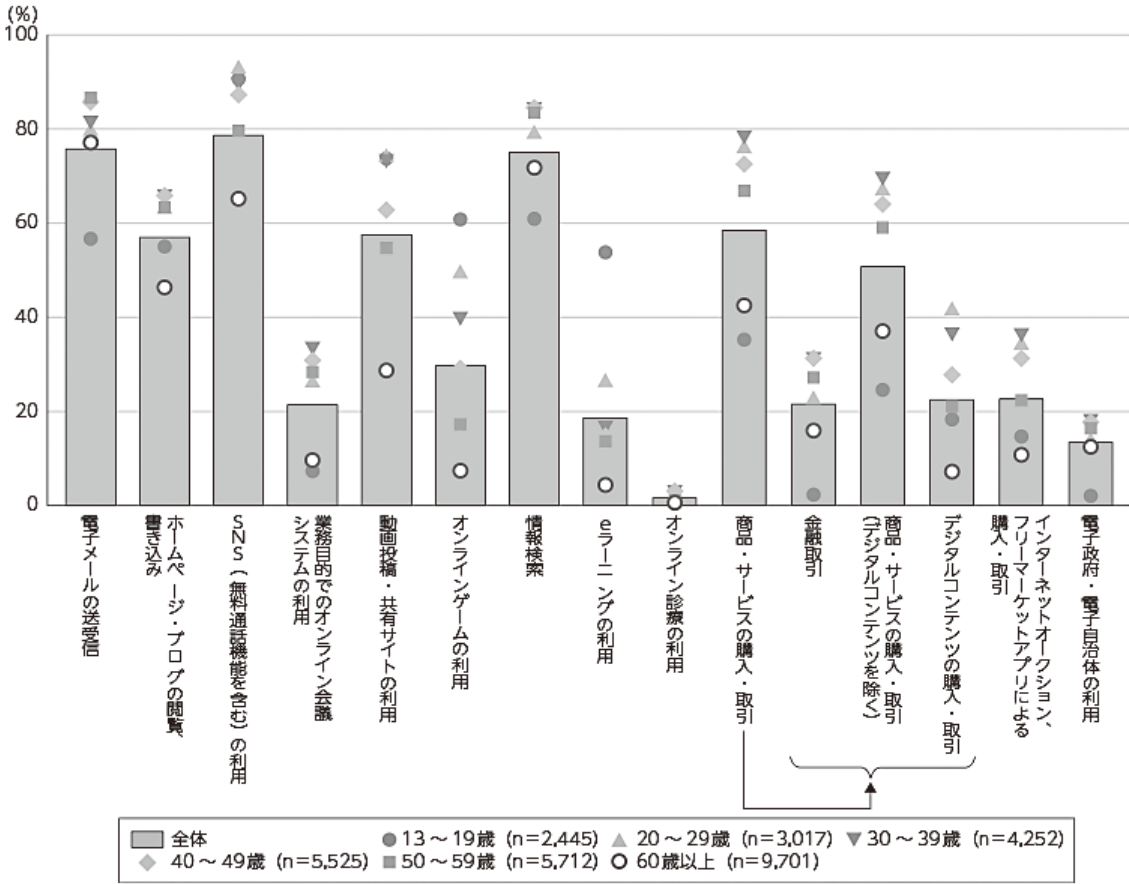
資料 1



（出典）内閣府「令和 4 年版高齢社会白書」（2022 年）

高齢化の推移と将来推計 | 白書掲載番号（20-1-1-1）

資料 2



（出典）総務省「2021 年通信利用動向調査」（2022 年）

「年齢階層別インターネット利用の目的・用途（複数回答）」

資料 3

2018 年 2 月の国連総会では、高齢者における ICT（情報通信技術）の重要性を英語でスピーチし、2019 年 6 月に開催された G20 財務大臣・中央銀行総裁会議の関連シンポジウム「高齢化と金融包摂」でも、高齢者が金融サービスから取り残されないための IT 活用のありかたについてスピーチをするなど、活躍の場は多岐にわたります。若宮さんの肩書は、「世界最高齢プログラマー」、あるいは「デジタルクリエイター」、あるときは「IT エバンジェリスト（伝道師）」などさまざま。いずれも「自分で名乗っているわけではなくて、周りが勝手によんでくれている。次はどんな肩書が付くのか自分でも楽しみ」と笑います。

最近では、ご自身の介護経験を踏まえ、介護分野の IT 化にも高い関心を寄せています。

「現在、AI スピーカーのように、ただ話しかけるだけでさまざまな日常の動作を機械がやってくれる技術も普及し始めています。今後 AI やロボットがさらに進化すれば、介護の負担も軽減できるはずです。例えば、トイレに行くのも人に手伝ってもらうのであれば、頻繁にお願いすることに気兼ねしてしまいますが、ロボットなら何度でも頼める。人材不足の問題も含めて、介護の分野こそ IT 化をいち早く進める必要があると思います」。

政府が主宰する「人生 100 年時代構想会議」にも、学者や経団連会長らと肩を並べ有識者として出席した若宮さんですが、「まさか 80 歳を過ぎてこんなことになるとは考えもしませんでした」と述懐します。

「でも、人生 100 年時代では、私の身に起こったような思いもよらない出来事が、誰にでも起こりうるのではないのでしょうか。よく、『70 歳になったら人生を振り返って自分史を書こう』などといわれますが、70 歳で自分史を書くのはまだ早いと思います。むしろ、自分のコンテンツをいかに増やすかに時間と労力を使ったほうがいい。大切なのは自分史よりコンテンツ作りです。それに、ブログやフェイスブックに今日あったことを書いていけば、それが蓄積されて結果的に自分史になるので、あらたまって人生を振り返る必要なんてないのです（笑）」。

現在 84 歳の若宮さんですが、驚くべきことに「80 歳のときよりも知能指数が高くなっていくような気がする」のだとか。「おかげさまで注目を集めるようになって、世界各国のさまざまな人たちとお会いしたり、本を書いたりすることで、情報のインプットとアウトプットの機会が増えて脳が活性化されているのかもしれないですね。昔から好奇心だけは人一倍あったので、それが今につながり、よかったのかなと思っています。

長生きはそれ自体がとても慶ばしいことですが、それだけでなく、いかに自分なりに充実し、納得できる生き方をするのが大切です。長く生きたという量だけでなく、いかに質の高い生き方をするのが問われています。私も、興味を持ったことに対しては、まだまだ臆せず挑戦していくつもりです」。

まさに若宮さん自身が、人生 100 年時代を体現する先駆者になりつつあるようです。

（出典）金融広報中央委員会「くらし塾 きんゆう塾」vol.50 2019 年秋号より一部抜粋